

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成27年7月9日(2015.7.9)

【公表番号】特表2014-515038(P2014-515038A)

【公表日】平成26年6月26日(2014.6.26)

【年通号数】公開・登録公報2014-033

【出願番号】特願2014-510901(P2014-510901)

【国際特許分類】

A 6 1 K	31/568	(2006.01)
A 6 1 K	9/06	(2006.01)
A 6 1 K	47/44	(2006.01)
A 6 1 K	47/22	(2006.01)
A 6 1 K	47/08	(2006.01)
A 6 1 K	47/10	(2006.01)
A 6 1 K	47/34	(2006.01)
A 6 1 K	47/04	(2006.01)
A 6 1 P	5/26	(2006.01)
A 6 1 P	15/10	(2006.01)
A 6 1 P	25/24	(2006.01)
A 6 1 P	15/08	(2006.01)
A 6 1 M	11/00	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	31/568
A 6 1 K	9/06
A 6 1 K	47/44
A 6 1 K	47/22
A 6 1 K	47/08
A 6 1 K	47/10
A 6 1 K	47/34
A 6 1 K	47/04
A 6 1 P	5/26
A 6 1 P	15/10
A 6 1 P	25/24
A 6 1 P	15/08
A 6 1 M	11/00

D

【手続補正書】

【提出日】平成27年5月14日(2015.5.14)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

用量有効期間中に男性のテストステロン血中レベルに許容されないスパイクを生じずに男性テストステロン欠乏症を治療するために男性にテストステロン補充を提供するために、鼻腔投与後少なくとも約6時間にわたってテストステロンを放出制御するよう鼻腔中に局所投与するための鼻腔内テストステロンゲルであって、

( a ) 男性テストステロン欠乏症を治療するために有効な量のテストステロンと、  
( b ) 少なくとも 1 種の親油性または部分的に親油性の担体と、  
( c ) 前記鼻腔内テストステロンゲル中のテストステロン溶解度を上昇させるための超溶媒と、  
( d ) 前記鼻腔内テストステロンゲルからの前記テストステロンの放出を制御するため有効な量の粘度調節剤と、  
を含み、界面活性剤を必要としない、鼻腔内テストロンゲル。